

令和3年度 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
志願倍率こそ県内有数（高校全日1.28倍）だが、少子化・公立離れに抗う価値創造力は保持できていない。核となる学習指導においては、未だ一方向型の授業も多く、内発的動機づけや問いを引き出す技術が開発途上にある。組織運営上も学年・教科・分掌がサイロ化するなど、労働生産性に課題がある。生徒の主体性を軸に、時代に合った中高一貫教育像を再描画する必要がある。	【生徒】 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る		
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	A
		多様な学びを促進する学習環境を提供する	B
		生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	A
	【学校・教職員】 名実一致した合理的で生産的な教育機関となる		
		学校の向かう方向性を一にする	A
		カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	A
		組織の生産性を高める（働き方改革）	A
		ゆるぎなき教科教育の質を達成する	B
		エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	B
	【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる		
	竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	B	

三つの方針	具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	<p>○10年先を透徹した生徒主体の探究学習 Student Agency</p> <p>【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する</p> <p>【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる</p> <p>【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける</p> <p>【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる</p>	B		<ul style="list-style-type: none"> ・目的志向と使命感の浸透 ・プロ教員としての意識・行動 ・世界の多様な人知との接触
「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	<p>【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る</p> <p>ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する</p> <p>多様な学びを促進する学習環境を提供する</p> <p>生徒が主体性を発揮できる自由を創出する</p> <p>【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる</p> <p>学校の向かう方向性を一にする</p> <p>カリキュラム・マネジメントの機能を構築する</p> <p>組織の生産性を高める（働き方改革）</p> <p>ゆるぎなき教科教育の質を達成する</p> <p>エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う</p> <p>【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる</p> <p>竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす</p>	A	A	※次頁参照
「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	<p>○高等学校全日制課程</p> <p>本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材</p> <p>○高等学校定時制課程</p> <p>本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材</p> <p>○附属中学校</p> <p>本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材</p>	A		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に合わせた特色選抜の使途の再考と選抜手順の再設計 ・本校の特色ある教育についての広報活動の強化

【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る

教務*（教務部、進路部、SSH部内で教務的な業務を担っている者）

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価		次年度（学期）への主な課題
生徒	ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	デジタル・ファーストの効果的な学び方を確立する	教務*, 教科	A	A	ICTへの馴化は劇的に進んだ。その強みを生かした授業づくりを加速する
		ICTを活用した指導技術を身につける	全教職員	A		
		6年一貫した探究教育のカリキュラムと授業のひな形、ルーブリックを確立する	SSH	B		
		観点別評価を通じ思考力・判断力等を適切に評価する	教務, 教科	B		
		教員のコーチング/メンタリング力を強化する	校長, 教頭, 主任	-		
	多様な学びを促進する学習環境を提供する	(中学・高1) いつでもどこでも円滑にインターネットに接続できるICT環境を維持する	情報部	A	B	デジタルな学びの需要に応えられるよう施設をリノベーションする
		(その他) ICTを用いた学びの環境を充実させる	情報部	C		
		生徒が利用したくなる飛龍館にする（ICT化など）	教務*, 情報部	B		
		蔵書・施設の電子化等、図書館機能の近代化を行う	図書館部	C		
	生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	生徒会の自治機能を強化する	特活	A	A	R3後期に順調な第1歩を示すことができた。その流れをR4以降維持・拡大する
		校則・内規等の内容をスリム化する	生指	A		
		HR, 儀式, 行事における生徒の役割を拡大する	特活（SSH, 学年）	B		
		部活動における生徒の主体性・選択幅を広げる	特活	B		
	グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	帰国子女（・外国人）選抜を促進する	校長	A	B	R4重点戦略として学校全体で取り組む
		地域交流・姉妹校開拓等を通じ、継続的な異文化交流の場を構築する	国際交流委	B		
		コミュニケーションな英語指導を強化する	英語科	B		
	キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する	質のいいキャリア教育資源を開拓・蓄積する	校長, 教務*	B	B	探究教育の充実（地域課題解決）を通じて実現する
	地域特性を活かし差別化された学びを提供する	単位制のベストプラクティスを収集する	教務*	A	A	R3に立ち上げたS校、教育ベンチャーなどとの協働をR4のパイロットを経てR5に形にする
		ICTの素養と起業家精神を備えた卓越人材を育成する	校長, 情報科, SSH	A		
		EdTechベンチャー等との連携やパイロットを推進する	校長	A		
本物の課題発見・解決手法を用いた教材を開発する		校長, SSH, 中学	B			

【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価		次年度（学期）への主な課題	
学校・教職員	学校の向かう方向性を一にする	新たな教育目的・経営計画を策定する	校長	A	A	R3に築いた経営サイクルをさらに浸透させる	
		中高一貫の教育課程を開発する（3フェーズ型）	校長, 教務*	B			
		3つの方針を開発する	校長	A			
		不分明な諸方針の明文化を行う	各分掌	A			
	カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	経営機能を導入する（組織・意思決定フローの更新）	校長	A	A		データ経営のためのインフラを構築する
		中間管理（主幹級）の育成と組織化（旧：校務運営会議）を行う	校長	A			
		分散した教務機能を連結し、一貫した学習指導（新Rプログラム）を提供する	教務*	B			
		結果評価（成績・模試・アンケート等）の一本化・質向上を行う	DX専門部隊（設立予定）	-			
	組織の生産性を高める（働き方改革）	意思決定のためのBIシステムを構築する	DX専門部隊（設立予定）	-	A		部活動の近代化を行う
		分掌（部・委員会）の削減を行う	教務	B			
		業務（会議・手順・儀式等）の簡素化と断捨離を行う	全教職員	B			
		人・物・金の動きを俯瞰的に把握し可視化する	事務	C			
表簿・帳票を電子化する		教務, 各分掌	A				
情報共有を促進・迅速化する		教務, 事務	A				
コミュニケーションのデジタル化を推進する		教務	A				
分掌の役割を見える化・最適化する		各分掌	A				
学校・教職員	ゆるぎなき教科教育の質を達成する	教育時事・事例等についての情報共有を活性化する	校長, 教務*, 全教職員	B	B	教科チームとして動くための場所や体制を設ける	
		教員評価の質を向上させる（結果評価）	校長, 教科, 全教職員	A			
		教科の専門性とチーム力を向上する	教務*, 教科	B			
		シラバスにもとづく計画的な授業実践を行う	教務, 教科, 教員	B			
	カリキュラム・ポリシーにもとづく6年間一貫した学びを提供する	6か年一貫した全体計画・目標を描画する	教務, 教科	B	B	R5に向けて6か年一貫したカリキュラムを策定する	
	エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	国内外の難関／優良大学への進学を支援する	進路, 高3	C	B		進路指導部がリーダーシップを発揮して出口指導を行う
		受験戦術にまつわる最新の知識をまとめる	進路	B			
		（部活実績も活用した）総合型入試を積極的に推進する	進路	-			
	出口指導方針を明確化する	進路	B				
	アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	ポリシーに合わせた大胆な学検運用を行う	校長, 教務*	A	A	特色選抜のあり方を正準化する	
		ターゲット層を戦略的に開拓する	校長, 教務*	B			
	安心・安全の学校環境を維持する	清潔で利用しやすいトイレを充実させる	保健, 事務	A	B	インシデント予防のための情報共有と発生時の指揮命令を徹底する	
個人情報保護方針を定義・運用する		情報部, 事務	A				
一人1台環境に応じた情報セキュリティを維持する		情報部	B				
いじめを防止する		いじめ防止委	B				
校内での事故・災害を防止する		衛生委	B				
教職員による不祥事を防止する		管理職	C				
安全な部活運営を維持する		特活	B				
正確な事務処理を行う		事務	B				
会計コンプライアンスを遵守する		事務	B				
学検におけるインシデント（含：採点ミス）を最小化する		教委, 校長, 教務, 事務	?				

【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価		次年度（学期）への主な課題	
地域社会	地域人材を活用した、開かれた教育を推進する	OB / PTA の学校運営への関与を強化する	渉外, 特活, 学年	B	B	目的に応じた資源の「選択と集中」を継続する	
		地域課題の解決をカリキュラムに埋め込む	SSH, 中学	A			
		筑波大との高大接続を強化する	SSH	B			
		地域資源を開拓する	校長	B			
	竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	視聴者目線で欲しい情報が効果的に取得できる学校HPとする	教務, 情報	C	B	B	HPを更新する。分散した職掌を集めマーケティング組織を立ち上げる
		紙媒体の出版物の効果を評価し、取捨する	各組織	C			
		HP, SNS, MLなどを通じ竜一の価値を発信しつながりを醸成する	校長, 教務*, 情報, 各組織	A			
		学校運営についての対外的な説明責任を強化する	校長	B			
	地域に支えられた持続可能な部活動に転換する	部活の適正数を維持する	特活	B	B		生徒（・地域・OB等）主体で部活動のあり方について対話する場を作る
		教員の部活動に関わる労働時間を正準化する	校長, 特活	C			
		部活動の教育効果と学習活動との相乗効果を可視化する	DX専門部隊（設立予定）	-			
		特別活動の多様性を上げる	特活	A			